都市生活生協支援
第9号
1995.6.13

救援ニュース

都市生活現地救援本部
西宮市今津山中町9-9
電話：0798-36-6679

6月9日　西神ニュータウン青空市

西神戸平野地区　草刈博美さん

比較的被害の少なかった私達の町西神ニュータウンに大量の仮設住宅が建設されるにあたり、住民は戸惑いと不安の中で、ちょうど、模様替えの時期でもあり「使わなくなった本棚があるけれど」「食器が....」「.椅子が...」という声があり、それならば、仮設の方々に利用していただけるのではないかと平野地区の５名が中心となり、組合員やご近所の協力により家庭で眠っている生活用品を集め、仮設を訪問し不便な生活に少しでも役立てて頂けたらと「ぞうきんの会」を３月に発足いたしました。

ただ品物を持っていくだけでなく、雑巾やバスタオルで作ったマットなど、ひと手間と愛情を込めた主婦ならではの物をと、普段なかなか出番のないミシンを引っぱり出し縫いとめました。これは水はけの悪い仮設では重宝して頂きました。同じ地区に住む者として何かお役に立てたらと始めたエプロンがけのボランティアも４月から２ヶ月でのべ６ヶ所を訪問することができ、その都度反省会をし、試行錯誤を繰り返しながら活動を続けました。

活動の中で皆様からのお礼の言葉、嬉しそうな顔、今後の活動への要望など励ましていただき、私達は物を持って訪問しましたが、目に見えない色々な物を頂くことができました。そして、私達もやってみようという仲間ができたこと、訪問はできないけれど色々な方面で協力して下さった仲間。今回のことで協力の大切さを痛感した次第です。

鳴尾浜臨海公園青空市

浜甲武庫川地区　瀧上朱音さん

去る6月1日、地区内の鳴尾浜臨海公園の中の仮設住宅に於いて青空市を開催しました。ここでの青空市は3度目。今回は現地救援本部の方々にご協力いただいて準備を進めてきました。

私たちの地区では2月中旬より青空市に取り組んできましたが、当初はジャンパーに手袋というスタイルで寒さにふるえながらの販売だったのが、今回はパラソルで日陰を作るほどの日差しです。季節はこんなにも移り変わっているのに…という思いがふと胸をよぎります。が元気を出して開催の支度です。

地区の組合員の皆さんから寄せられた様々な救援物資、たとえば食器、台所用品、電化製品、きれいにクリーニングされた背広やワイシャツ、洋服から子供の玩具、はたまた三輪車までを並べ、そして「都市生活」の消費材をきれいに並べてのスタートです。

ここでの開催は三度目。しかも前日に配った救援本部作成のチラシの効果もあってたくさんの方が来られました。販売をしながら入居者の方にお話を伺うと、多くの方が「冷蔵庫が小さくて、買いだめや冷凍がうまくできなくて…」と言われます。買い物も遠くて不便なこの仮設住宅に、週一度「都市生活」のトラックがやってきて、重い野菜や調味料、安全で新鮮な消費材を分け合いながら、今までのこと、これからのことを話せる様な人の輪ができればいいのにな、そんな光景を見たいなと思いながらこの日の青空市を終えました。

泉北生協交流会

泉北生協　福田聖子さん

阪神大震災を経験した本人から直接お話を伺い、今後私たちは何をすべきかを考えていこうと「震災６千分の２を聞く会」が６月２日、泉北生協の共同購入センターで行われました。

この日、話し手としてきて下さったのは、東灘区で自宅が全壊の被害に遭われた魚谷津妙さんと、尼崎支部で炊き出し活動を一番最初に開始した富板能婦子さん。私にも被災した友人は何人かいましたが、この様に直接じっくりと被災体験を聞くのは初めて。地震直後の生々しい体験やその後の避難小学校での様子は、直接本人の口から語っていただくことで、初めて、その場の臨場感をわずかでも感じることができました。

魚谷さんはまず初めに「もっとひどい方もたくさんいるので、これは一人の体験だと思って聞いて下さい」と前置きし、話しをはじめられました。地震の夜は一晩中、火災報知器や車のクラクションの音が鳴り響き、それが今も耳に焼き付いているとのこと。そして避難所では、２日目にはトイレが汚物でパンク。大便の山になんとかしなければ…とスコップを捜しだし、汚物処理から行動を始めた様子などが生々しく語られました。また次々と運ばれてくる遺体の安置場所に困り、校長先生から相談を受けたことなど、テレビや新聞の紙面からは伝わらなかった現場の様子に、胸が締め付けられる思いでした。

続いて富板さんからは「何か、せなあかん」と自転車で武庫川を渡り、炊き出し活動を次々と行っていった経過が話され「都市生活があったからこそ、自主的に動けた」と報告。口コミで関わる人が増えていった様子に”これぞ生協の仲間の輪”と実感。「自分たちだけが安全な物を、というのはエゴにすぎない。私たちの運動が社会全体を変えていく力を持つことに意義がある」という言葉に、これこそ生協活動の原点なのだとあらためて確認した思いです。

最後に「被災者を甘やかさないで下さい」と魚谷さんの言葉。私たちは、被災者に対し、自立への道を少しでも支援できれば…そして、それは息の長い活動でなければならないと思いを新たにした交流会でした。

ボランティアから見た都市生活

＜芦屋市大原集会所から＞

芦屋市民学生救援隊
木下美佐子さん

私は４月８日から５月２日まで芦屋市の大原集会所で常駐ボランティアをしていました。都市生活さんには、週二回ずつ炊き出しをして頂きました。炊き出しがあると、お弁当がおいしくなります。市から配られる食事は３種類ぐらいのお弁当が順番にまわっていて、揚げ物が多く、野菜はほとんど入っていません。ですから、具だくさんのおつゆや煮物は大変好評でした。４月に、集会所で都市生活さんから食べたいメニューのアンケートがありました。都市生活さんには事情があるのでしょうが、アンケートのメニューは出ず、みんな自分の希望したものがいつ出るかと楽しみにしていたので、それがちょっと残念でした。

大原集会所では、避難者の人達の当番制で掃除や食事の配布をするようになってから、横のつながりが強くなっていきました。炊き出しがあると、みんな下に集まってくるので楽しい食事となり、お弁当をおいしくするだけでなく、雰囲気づくりにも役立っていたと思います。そして、都市生活さんは炊き出しの食材と共に、調味料なども持ってきてくださいました。これは本当にありがたかったです。集会所のおばさん達はこれを使い、おやつを作るようになりました。また、炊き出しのおつゆが、次の日にはとろみをつけた中華スープとなって登場したこともありました。

こんなふうに、集会所の人達は、何から何までボランティアにしてもらうのではなく、自分たちが関わることで、生活に対しても前向きになっていく部分があったと思います。

一度こんな事がありました。都市生活さんは、前回の炊き出しの時に今回の食材を一緒に積んで行ったというのですが、それが見つからないのです。集会所のおばさん達がそんなことは知らずに、みんなで分けてしまったらしいのです。どうなる事かと思いましたが、都市生活の人と集会所の人が、今あるものを使ってのメニューの相談を始めました。結局、分けてしまったというのは勘違いで、食材は見つかりました。しかし、集会所の人達と考えたメニューも作ってくださいました。メニューの相談を横で見ていた私は、すごく楽しい気分になりました。あのときの都市生活の人と集会所の人の距離

は、避難者とボランティアとして理想的だったと思うのです。一緒にあーだこーだ言いながら、主婦の知恵を使ってメニューを決めていく。これは偶然の出来事だったので、自然な形で都市生活の人の輪と集会所の人の輪が重なった訳です。毎回その場でメニューを決めるなんて不可能だと分かっていますが、それに近い形で関われると、輪がもっと重なることができたのではないでしょうか。

５月２５日には、都市生活さんの協力により集会所の「さよならパーティー」を開きました。急な日程にも関わらず、これまで集会所に関わった人がたくさん集まって、楽しい会となりました。既に仮設に移った人達の元気な顔を見ることができてうれしかったです。

私は学生救援隊として、これからも活動していきます。集会所での経験をいかして、仮設住宅の人と関わりたいと考えています。これからも御協力をよろしくお願いします。

5月25日芦屋、大原集会所「さよならパーティー」にて

仮設住宅支援連絡会に参加して

都市生活現地救援本部

６月９日（金）、地下鉄西神線名谷駅の北にある仮設住宅敷地内において、第１回「仮設住宅支援連絡会」が開催されました。これは「地元ＮＧＯ救援連絡会議」のメンバーが中心になってつくられたものです。仮設住宅は物心両面で大きな問題をたくさん抱えています。民間ボランティアを中心に、行政も巻き込んでこれらの問題の解決策を探っていくのがこの会議の目的です。

会議は、仮設住宅内の空きスペースに建てられた大きなインディアンテント（ティピー）の 中で行われました。参加者はおよそ１００人。この仮設に住んでいる人はもちろん、さまざまなボランティア団体のメンバーが顔を合わせました。兵庫県と神戸市の職員も一人ずつ出席しました。

活発な意見が出される中、難題や難問に対して、それぞれの立場でできる限りの知恵を出し合おうと、時には激しいやりとりもありました。今後、定期的に会議をもちながら、被災者の生活改善策を考える学習会を重ねていく予定です。

都市生活の救援青空市は、回を重ねるごとに仮設住宅のさまざまな問題に直面し、たくさんの宿題を持ち帰ったような気がします。「定期的に来て欲しい」、「野菜が欲しい」などの声を多く耳にします。これらの中には私たちが解決できる問題と、他の仲間や団体の協力なくしては解決できない問題とがあるように思います。

当現地救援本部としては、情報交換、学習、啓発の場という意味からも、できる限りこの会議に参加していきたいと思います。別紙面にて次回開催日時と場所をお知らせしますが、関心のおありの方は現地救援本部（ｔｅｌ；0798-36-6679）までご連絡下さい。

現地救援本部　ＩＮＦＯＲＭＡＴＩＯＮ

皆さんの家庭で不要になった生活用品を、必要としている被災者の方にお譲りいただこうと「リサイクル生活用品登録」を進めています。ご協力下さい。対象品は、電気製品・寝具・自転車などです。また、組合員の中でも「譲って欲しい」という声があり、再度、申告用紙を配布します。ご希望の方はどしどしお寄せ下さい。

☞今後の予定（前号の掲載事項は割愛します。）

６／２１　・ポートアイランド仮設住宅にて救援青空市
　　・「仮設住宅支援連絡会議」　ＰＭ２：００～
　　クリスタルタワー　８Ｆ（ＪＲ神戸駅　徒歩１分）
２３　六甲アイランド仮設住宅にて救援青空市

☞アルジェリアテントをつかってみませんか？

アルジェリアテントを交流の場に使ってみませんか！こんな呼び掛けが去る「第１回仮設住宅支援連絡会議」において、ある参加メンバーから寄せられました。

・兵庫県にアルジェリアからの友好支援として、大型仮設テントが寄付されました。
・しかし今現在、活用されずにいるテントが多数あるようです。
・１３ｍ×４ｍの大きさです。
・とりあえず設置希望（者・団体）を、１０ケ所程度とりまとめ、県と交渉してみます。
・すでに、子供たちの遊び場として、あるいはミニ図書館として、はたまたお年寄りとの交流の場として・・・など希望者が続出しているそうです。
・皆さんのなかに、もしもご希望があれば現地救援本部までご一報願います。

総代会を終えて

都市生活生協前理事長　瀧上凱今

都市生活生協の第９会総代会が６月７日に兵庫県私学会館で行われました。まず、１９９４年度の活動報告、９５年度活動方針案等の議案が審議、採決された後「阪神大震災にあたって寄せられた全国の支援に感謝する決議」を拍手で採択しました。

救援活動方針としては、今年度も引き続き、組合員を対象にした救援活動を行うとともに、生活クラブ連合、グリーンコープ連合、大阪事業連の支援のもとで、地域被災者への救援活動に取り組んでいくことを確認しました。

都市生活生協としては、自らの再建を進めながら、地域社会の復興を支援するという困難な道を歩むことになります。しかし「地域の復興無くして「都市生活」の復興はない」という総代会での確認のもとに、みんなで知恵と力を結集していけば何とかなるでしょう。気負わず、気長にいきましょう。

6月14日から

救援本部の電話番号が変わりました

変更前　０３０－６１８－１７９２（携帯）

新しい番号　０７９８－３６－６６７９

これまで料金の高い携帯電話で皆さんには御迷惑をおかけしました。ようやく普通の電話を設置しましたので、これからもお気軽にお電話下さい。なお、携帯電話もそのまま使えます。